

新社会

つくば

発行：新社会つくば

TEL 029-857-1154 FAX857-1254

金子 かずお 気付

kaneko@max.hi-ho.ne.jp

<http://kanekokazuo.hakurakuryo.org/>

2018年 9月11日 第1090号



つくば市議会

一般質問は11日 12日 13日

9月定例議会での一般質問は 11 日、12 日、13 日の三日間で開催されます。今回の議会では 18 名の議員が市政全般わたり質問されます。金子かずお議員は、13 日の午後ごろになります。金子かずお議員の質問は ①障がい者雇用について ②豪雨災害対策について ③公共施設の暑さ対策について ④消防団のポンプ車運転について ⑤市長公約事業のロードマップからの五点にわたり質問を行います。

一般質問の通告議員 18名・通告順

大久保勝弘	議員	木村 修寿	議員
小久保貴史	議員	小野 泰宏	議員
木村 清隆	議員	鈴木富士雄	議員
浜中 勝美	議員	滝口 隆一	議員
橋本 桂子	議員	山中 真弓	議員
皆川 幸枝	議員	小森谷佐弥香	議員
宇野 信子	議員	北口 ひとみ	議員
金子 かずお	議員	山本 美和	議員
黒田 健佑	議員	塙本 洋二	議員

決算特別委員会が設置される

平成 29 年度の決算審査を行う特別委員会が 4 日に設置されました。平成 29 年度一般会計歳入歳出決算、同国民健康保険特別会計歳入歳出決算、同下水道事業特別会計歳入歳出決算、後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算、同介護保険特別会計歳入歳出決算等閉会中の認定審査です。



東海第2原発 再稼働反対側

東海第2再稼働 STOP 茨城県大集会

日本原子力発電東海第2原発(東海村白方)の再稼働に反対する市民による「東海第2再稼働 STOP 茨城県大集会」が 1 日水戸市内で盛大に開催された。

実行委員会からは、再稼働の際の事前了解権が拡大された「茨城方式」の新協定を、私たち市民が本当に力のあるものにしなければならない。と呼びかけた。集会賛同人からも、事故後 7 年半たつ今なお続く地元の苦しみを伝えた。

また脱原発弁護団連絡会共同代表からも「東海第2は超老朽化原発で超人口過密地区にあり、国を滅ぼす恐れがある。住民が総力戦で廃炉に追い込まなければいけない」と声を強めた。

集会では東海第2原発の再稼働に反対する決議分を採択後に市の中心部をプラカードやのぼり旗を掲げデモ行進をした。

風力発電の時代

出力 1 万 kW の洋上大型機



風力発電機の大型化競争が激化してきた。独シーメンスは 2020 年代前半に、出力 1 万 kW 以上の洋上風力発電機を発売する方針を決めた。出力が現在の主力機種の 1.5 倍以上の大型機を洋上に並べて大規模な風力発電所をつくり、原子力や火力を代替する狙いだ。米ゼネラル・エレクトリック（GE）なども大型化を目指しており、風力を基幹電源に育てる動きが広がってきた。

大型機の発売計画は、シーメンスガメサリニューアブルエナジーのマーカス・タケ最高経営責任者（CEO）が日本経済新聞の取材で明らかにした。同社はシーメンスの風力発電機事業会社で、塩害対策などが必要な洋上型で世界シェアの半分以上を占める。

タケ氏は「1 万 kW 超の洋上風力向け大型機を 24 ~ 25 年までに開発する」との方針を語った。洋上風力で現在主流なのは 6 千 kW 機だ。

風力は従来、環境負荷の低い分散型電源と位置づけられてきた。しかし、タケ氏は「もはや原子力と同等の出力規模の発電所が作れる。将来は最もコスト競争力のある電源になる」と語った。

実際に、1 月に建設が始まり、同社が 7000 kW の風力発電機を 174 基納める英国の洋上風力発電所の出力は合計約 120 万 kW。原発 1 基分に相当する。400 平方 km と東京 23 区の 3 分の 2 の広さの海域に風力発電機を建てていく。

保守技術も発達

保守関連の技術開発も強化する。「羽根の異常を検出し、簡単な修理ができるロボットを開発した。年内にまず 100 枚の羽根で試験する」（タケ氏）。保守の省力化や稼働率向上につなげ、発電コストを下げる。

他の重電機器メーカーも大型化を急ぐ。GE は 4 億ドル（約 420 億円）を投じ、1 万 2 千 kW の新機種を開発中で、21 年に出荷を始める。GE は 15 年に仏アルストムの電力機器部門の買収で洋上

に参入したが、新機種でシーメンスを追う。kW の新機種を開発中で、21 年に出荷を始める。GE は 15 年に仏アルストムの電力機器部門の買収で洋上に参入したが、新機種でシーメンスを追う。

三菱重工とヴェスタス（デンマーク）が折半出資する MH I ヴェスタス（同）は、現時点で世界最大の風力発電機（出力 9500 kW）を開発済みだが、さらに大型化を進める。日立製作所も大型機を開発する方針だ。

洋上風力は先進地域の欧州で、既存の電源に匹敵するコスト競争力を持ち始めている。英調査会社ブルームバーグ・ニュー・エナジー・ファイナンス（BNEF）の調べによると、欧州の洋上風力の発電コストは 2017 年は 1 kW 時当たり 16.8 円だった。3 年前に比べ 4 割下がった。

すでに原子力より安い

すでに同 21.1 円の原子力のコストを下回っている。石炭火力は同 9.6 円とまだまだ安いが、英國では 20 年前後に洋上風力が石炭火力を下回るとの予測もある。

欧洲でも、5 年前には洋上風力は最もコストの高い電源だった。各国政府は非常に重い風力発電機の積み下ろしに耐える頑丈な専用港など関連インフラを整備。商業ベースで運営できる大規模な洋上風力発電所の開発を後押しした。

風力への投資が最大に

BNEF の試算では、17~40 年の世界のエネルギー投資の 32% は風力が占め、電源別では最も多くなる見通し。天候で発電量が変動する弱点はあるものの、原子力・火力の合計 28% を上回り、基幹電源のひとつになる。

日本でも大規模な洋上風力発電所の建設を促す新法が近く成立する見通し。しかし、発電に向く風が吹く東北や北海道の日本海側は送電線が不足し、専用港の整備も遅れている。本格普及にはまだ時間がかかりそうだ。

（2018/3/20 日本経済新聞 電子版）